

事前評価報告書

Advisory Board Meeting 開催日：平成17年7月28, 29日

評価委員：（敬称略、アルファベット順）

Prof. Masuo Aizawa (Tokyo Institute of Technology), Prof. Fritz Aldinger (Max Planck Institute for Metals Research), Prof. Akio Etori (Edogawa University), Prof. Jean Etourneau (Institut de Chimie de la Matière Condensée de Bordeaux), Prof. Colin Humphreys (University of Cambridge), Dr. Tetsuro Ohashi (National Traffic Safety and Environment Laboratory), Dr. Leslie E. Smith (National Institute of Standards and Technology), Prof. Marcel Van de Voorde (European Commission Research), Dr. Stan Williams (Quantum Science Research, Hewlett-Packard), Prof. Hiroaki Yanagida (University of Tokyo)

課題名	ナノチューブ・ナノシートの創製と機能発現に関する研究
研究責任者の所属・氏名	フェロー 板東 義雄
【項目】	評価結果
コメント及びアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・これは世界トップレベルの研究である。独自性においても世界的である。 ・カーボンナノチューブとは別のこのプロジェクトは、新しい非カーボンナノチューブの探索に対して極めて独創的である。このチームは2005年度のつくば賞を受賞している。ナノチューブからナノシートへと移るアイデアは有望である。 ・素晴らしい斬新な化学合成である。 ・研究はきちっと整理されている。 ・有用で興味ある研究である。しかしながら目標に対するこのプロジェクトの寄与について見積もるのは難しい。この研究はナノ分野の他のプロジェクトとはうまく連携していないように見える。 ・これは優れた基礎研究プロジェクトである。しかしながら大学で有能な学生によってもなされる研究であり、キャラクタリゼーション設備（TEMなど）を伝える以外に、NIMSがこのプロジェクトを実施する特別の利点があるとは思えない。
評価点	S, S, A+, S, S, A, A, A+, S, S-
総合評価点※	A+

※評価点の点数は10(S), 9(S-), 8(A+), 7(A), 6(A-), 5(B+), 4(B), 3(B-), 2(C+), 1(C)とする。総合評価点は評価委員の点数の平均点（小数点第二位以下四捨五入）をXとすると、S: X=10, S-: 9≤X<10, A+: 8≤X<9, A: 7≤X<8, A-: 6≤X<7, B+: 5≤X<6, （以下同じ考え方）・・・とする。